

御披露

雷神門の大門より。續く中見世仲の町。五街にひたり
境内の並ぶお食の大舗の。益夜全盛は餘光をうりたく。
坐敷の手扱の小鍋立ちんくあひ鴨お客を引鍋招く男花の
穂の出るけの突出しは素人味雜魚場料理の魚交り。大町
並の數も入や。妙見様の圍取弁當ふい辻占の裏家より。表間
口を張程の御取立を願ふにせん
主人の代りて

假名垣魯文戯述

○河い鴨 活き人あ 三々

○お形づく引端 振き朱か

来るの月今日を世びらきと藤原宗時をうりて

法師の妹志やの半堂境周

男花松太部

